講義名：経営財務論（応用）　＜秋＞　　ナンバリングコード：0

[redacted]

担当教員名：今木　秀和

研究室：名誉教授控室　　オフィスアワー：授業前後　　メールアドレス：　h-imaki@andrew.ac.jp

授業形態

『講義』

講義・演習概要

企業は、様々な経営資源を必要としている。人、物、金（カネ）、情報という資源がそれである。このうち金（カネ）という資源を対象として講義を行うのが経営財務論である。
金（カネ）は、経営財務論では資本といわれる。企業は、資本を証券市場や金融市場、さらには企業の内部（内部留保、自己金融）から調達する。調達した資本は、企業や事業の目的や使途に合わせて資産の形で運用される。運用の結果は、損益やキャッシュフローとして把握され、配当・内部留保・自己株式の取得などとして処分される。資本の調達・運用・利益処分がこの講義の主要な問題領域である。
　この講義では、経営財務の基礎的知識を習得していることを前提として応用的問題に関して講義する。

学習目標

企業の経営財務の応用的知識の習得がこの講義の目標である。テキストの各章の章末演習問題を解くことによって応用的知識の習得ができているかを確認しながら学んでいく。章末演習問題に取り組んだ結果は、レポートとして提出を求める。おおむね３日～４回程度の提出である。毎回の授業で「コメントカード」にその授業で学んだことをまとめて整理し、要点を記入してもらう。質問や意見、要望などがあれば併せて記入してもらう。次回の授業でそれらに対して解説・説明・対応策などを述べる。これは毎回の学習を効果的にするための工夫である。

講義・演習計画

【第1回】　オリエンテーション：投資価値の創造（1）	
【第2回】　投資価値の創造（2）	
【第3回】　投資価値の創造（3）	
【第4回】　長期資金調達の制度（1）	
【第5回】　長期資金調達の制度（2）	
【第6回】　長期資金調達の制度（3）	
【第7回】　エクイティファイナンス（1）	
【第8回】　エクイティ・ファイナンス（2）	
【第9回】　負債ファイナンスと証券化（1）	
【第10回】　負債ファイナンスと証券化（2）	
【第11回】　配当政策と自社株買い（1）	
【第12回】　配当政策と自社株買い（2）	
【第13回】　合併・買収と企業再編（1）	
【第14回】　合併・買収と企業再編（2）	
【第15回】　行動ファイナンス	

成績評価の方法

試験	70%	レポート	20%	出席	10%
コメント	成績評価は、学期末試験を基本とする。経営財務の応用的問題に関する知識の習得が、この講義の目標であるので、どの程度知識の習得ができているかを試験によって判定する。学期の途中で学習を整理し、理解を深め、知識を確実にするために数回（おおむね３～４回程度）のレポートの提出を求める。毎回授業で「コメントカード」の提出を求める。このカードには授業で学んだことを整理し、纏め、要点を記入してもらい、併せて質問・意見・要望があれば記入してもらう。上記「出席１０％」は、このコメントカードの配点であり、しっかり書いている者に限って点数を与える。				

テキスト

著書	榊原茂樹・菊池誠一・新井富雄・大田浩司	タイトル	『現代の経営財務　新版』
ISBN	978-4-641-12427-1	出版社	有斐閣
教科書購入区分	生協購入	備考	
著書		タイトル	
ISBN		出版社	
教科書購入区分	選択なし	備考	
著書		タイトル	
ISBN		出版社	
教科書購入区分	選択なし	備考	

参考文献

高橋文一郎・井出正介著『経営財務入門』日本経済新聞出版社
砂川伸幸・川北英隆・杉浦秀徳著『日本企業のコーポレート・ファイナンス』日本経済新聞出版社

事前および事後学習の指示　（事前学習　30　時間　・事後学習　30　時間）

基本的には講義計画に従って授業を進めるので、事前にテキストの該当箇所を準備学習としてよく読んでおくことを当然の前提として講義する。またテキストの各章末演習問題に繰り返し取り組むことを事後学習として義務付ける。。事後学習の結果は、数回（おおむね３～４回程度）のレポートとして提出を求める。

その他備考（担当教員用）

キーワード

備考（管理者用）